【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成31年1月31日(2019.1.31)

【公開番号】特開2018-196499(P2018-196499A)
【公開日】平成30年12月13日(2018.12.13)
【年通号数】公開・登録公報2018-048
【出願番号】特願2017-101875(P2017-101875)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０

【手続補正書】
【提出日】平成30年11月29日(2018.11.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技が可能な遊技機であって、
遊技者の動作を検出可能な検出手段と、
遊技者に対して動作を促す促進演出を実行する促進演出実行手段と、
前記検出手段によって遊技者による複数回の動作を行う所定動作が検出されたことに基づいて特定演出を実行可能な特定演出実行手段と、
を備え、
前記検出手段は、第１検出手段と、該第１検出手段とは異なる第２検出手段と、を含み、
前記特定演出実行手段は、
遊技者による前記所定動作とは異なる特定動作に基づいて前記所定動作が実行されたと見做して前記特定演出を実行可能であり、
前記第１検出手段で前記特定動作が検出されたときと前記第２検出手段で前記特定動作が検出されたときとで、同じはやさで前記特定演出を実行可能である
ことを特徴とする遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
前記課題を解決するために、本発明の請求項１に記載の遊技機は、
遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機１）であって、
遊技者の動作を検出可能な検出手段と、
遊技者に対して動作を促す促進演出を実行する促進演出実行手段と、
前記検出手段によって遊技者による複数回の動作を行う所定動作（例えば、連打）が検出されたことに基づいて特定演出（例えば、連打対応メータの表示態様を最終態様に向けて更新する部分）を実行可能な特定演出実行手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０が予告演出処理や頬内演出処理を実行する部分）と、

を備え、
前記検出手段は、第１検出手段（例えば、第１プッシュボタン３１Ｂ）と、該第１検出手段とは異なる第２検出手段（例えば、第２プッシュボタン３２）と、を含み、
前記特定演出実行手段は、
遊技者による前記所定動作とは異なる特定動作（例えば、長押し）に基づいて前記所定動作が実行されたと見做して前記特定演出を実行可能であり（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０が予告演出処理や大当り遊技中処理を実行してオート連打によって連打対応メータの表示態様を最終態様に向けて更新する部分）、
前記第１検出手段で前記特定動作が検出されたときと前記第２検出手段で前記特定動作が検出されたときとで、同じはやさで前記特定演出を実行可能である（例えば、図１９（Ｂ）に示すように、遊技者が第１プッシュボタン３１Ｂを長押しした場合と第２プッシュボタン３２を長押しした場合とでは、どちらも長押し判定期間が同一の０．２秒であるので、同じ速さで連打対応メータの表示態様を最終態様に向けて更新可能な部分）
ことを特徴としている。
この特徴によれば演出効果を高めることができる。